



森林ふれあい情報

平成27年 7月
第 35 号

中部森林管理局木曾森林ふれあい推進センター
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

「城山史跡の森」

希少種等の個体調査

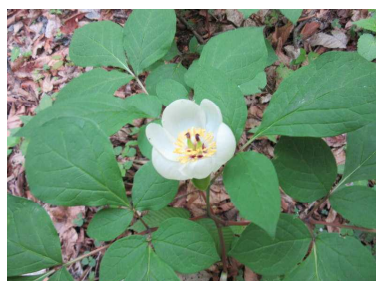
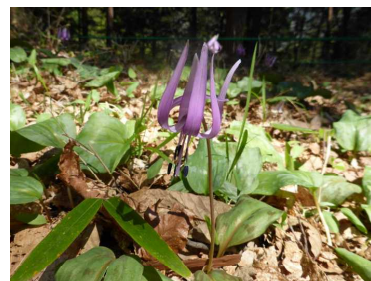
センターの主要な活動フィールドの一つである城山国有林の「城山史跡の森」にはヤマシヤクヤク、カザグルマ、ササユリなどの県指定希少野生植物が生育しており、これらの植物に加え群生が見られるカタクリについて個体の増減を毎年調査しています。

今年は開花時期が例年より早い傾向にありました。

【カタクリ】(4月27日調査)

全9プロットのうち7プロットで開花しており、開花数は54と昨年の41に比べて増加していました。

また、昨年1個体のみ開花が確認された2つのプロットでは、それぞれ2個体、5個体に増加していました。



【ヤマシヤクヤク】(5月12日調査)

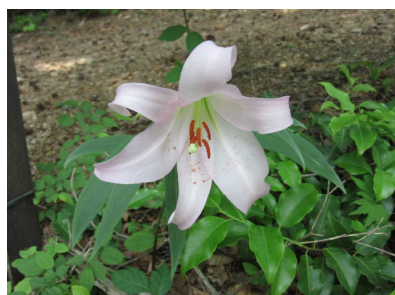
自生地は沢を挟んだ中腹斜面で、開花数は264と昨年の269とほぼ横ばいでした。

昨年度からは未開花のものも含む個体数も調べていますが、沢の東側(北東斜面)での個体数と開花数は増加し、西側(南西斜面)では減少していました。

【カザグルマ】(5月18日調査)

今年の開花数は139と昨年の130に比べて微増となりました。

カザグルマの茎に混じり生育の妨げとなるクズ類のつる性植物が繁茂していることから、これら阻害植物の除去を引き続き実施していくこととしています。



【ササユリ】(6月15日調査)

開花数は昨年の34から27と下回りました。

原因として6月初めに球根を掘り取られる被害が発生し、その痕跡からイノシシなどの動物による可能性が高く、今後植生保護のための対策を講じていく必要があります。

遊歩道整備

木曾町の中心街の近くにあつて、気軽なハイキングコースとして知られている「城山史跡の森」において4月12日（日）、遊歩道の整備、あずまや及びトイレの清掃が城山史跡の森倶楽部の会員、木曾森林管理署、当センターの職員を含めて約20名が参加して行われました。遊歩道に倒れていた倒木及び崩土の除去、雨水の水はけの溝掘り、あずまやの屋根に積もった落ち葉の払い落としや笹の刈り払いに大粒の汗を流しました。



植物観察会

城山史跡の森倶楽部主催の植物観察会が4月29日（水）に木曾郡内の参加者及び今年には木曾町環境協議会の養成講座を兼ねて行ったことから名古屋市民を含めて70名の参加者で賑わい、春の芽吹き始めの森林でいろいろな植物の観察を楽しみました。

この観察会は、毎年、木曾町福島の「城山史跡の森」（福島城跡一帯の国有林、県有林、寺社有林を総称）で行われているもので、当日は、植物に詳しい県植物研究会員の講師や同倶楽部の会員の案内で約8キロの行程を植物や史跡の説明に耳を傾けながら散策し、比叡山で名前が付けられたエイザンスミレ、垣根を通りぬけて生えることから名付けられたカキドウシなど、ちょうど花が見ごろの植物や、城山国有林が北限というイワタバコなど希少な植物を含む約60種類の草本やこの地の歴史、更に遠くに見える木曾駒ヶ岳に代表される山々の特長を熱心に学びました。

地域と木曾川下流住民

木曾地域は、木曾川や愛知用水等による清らかな水の供給や保健休養の場を提供するなど、下流域の名古屋圏と密接な関係にあり、いろいろな交流事業に取り組んでいます。

平成の名古屋市民の森

名古屋城本丸御殿復元事業の一環として木曾川上流域の豊かな自然環境を残そうとする目的で、名古屋市民による「平成の名古屋市民の森づくり」活動が5月16日（土）に木曾町の町有林で行われました。

平成21年から実施されている活動で、7回目となる今回は名古屋市民120名と関係者合わせて約200名が、ヒノキやクヌギなどの広葉樹730本の苗木を植えました。



平成日進の森

木曽川の上下流の縁で友好自治体提携を結んでいる、木祖村と愛知県日進市合同による森林整備を5月9日（土）に、国有林に設定された木祖村の分収育林地「平成日進の森」で実施されました。

両市村は、平成4年に友好自治体連携を結び、その一環として平成10年までに、32ヘクタールの森林に約9万5千本のヒノキを植栽しました。

当日は、日進市の住民や木祖村の職員、村議など約70人が参加し、ヒノキの森で除伐等の森林整備を行ない、午後からは環境省から「平成の名水百選」に選ばれている水木沢天然林を散策しながら交流を深めました。



水と緑の感謝祭

木曽郡王滝村松原スポーツ公園をメイン会場として、「水と緑の感謝祭」が6月7日（日）に開催され、木曽川下流域の住民を中心に愛知用水や中日森友隊の隊員など約300名が参加しました。

この水と緑の感謝祭は、昭和59年9月14日に発生した長野県西部地震による荒廃地の復旧を通じ、未来世紀へ豊かな森林を継承するという目的で平成11年から王滝村、愛知用水、木曽森林管理署等で構成する「未来世紀へつなぐ緑のバトン」実行委員会で実施しているものです。

開会式では、来場者全員で御嶽山噴火災害の犠牲者を悼む黙祷をささげたあと、実行委員会を代表し、王滝村瀬戸村長から「水と緑を守り、未来に引き継いでいきたいので、下流域の皆さんにも力添えをいただきたい。」との挨拶がありました。

当日は、木曽森林管理署、当センターの職員もスタッフとして参加し、瀬戸川風致探勝林の自然散策の案内や松原スポーツ公園の除伐作業の指導を行いました。

森林ボランティア作業支援

緑の挑戦者

NPO法人「緑の挑戦者（グリーンチャレンジャー）」は、水の恵みを受けている名古屋市民等が主体的に水源地の町村等に協力し、水源林の育成と環境保全への寄与することを目的に、木曽郡内での森林整備活動を行っています。

今年度の1回目は、6月6日（土）に木祖村「こだまの森」で参加者39名による除伐作業が行われ、地元木祖村をはじめ長野県、木曽森林組合、木曽森林管理署と協力して作業指導にあたりました。



中日森友隊

王滝村「国民の森」（昭和59年9月14日に発生した長野県西部地震の災害跡の復旧地）及び地元村有林で植樹や除・間伐等の育林作業ボランティア活動を行っている中日森友隊（愛知県阿久比町）が、6月6日（土）に「国民の森」において、昨年の御嶽山の噴火に伴い大量に流失した土砂の影響で枯れたヒノキ植栽木の伐採・片付け作業をボランティアで実施しました。

当箇所は、ボランティアによる作業支援も受けながら、地震災害の復旧を国民を挙げて、31年前から緑化事業が進められてきた場所です。

土石流被害箇所にハンノキ、コナラ、カンバとともに植えられたヒノキは直径10センチメートル程度に生育しましたが、土砂で根元が埋まり100本程度枯れてしまいました。

当日は、天候にも恵まれ、昨年より大きく上回る37名の参加者により、ノコギリで伐採し、玉伐り、林外への運び出し作業に汗を流しました。



地球緑化センター

NPO法人「地球緑化センター」では、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に上松町赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムが行われ、その後、「ふれあいの森（名称：『太樹の森・赤沢』）」を設定して以来、毎年森林整備を実施しています。

6月13日（土）、14日（日）に太樹の森・赤沢で行われた森林整備は、「山と緑の協力隊」での200回目のプログラムとなり、「赤沢・樹齢300年の森林づくり」をスローガンに両日26名の参加者のもと、樹齢約50年生の人工林ヒノキの間伐と除伐を行いました。当センターは木曽森林管理署と連携を図り、作業の手順及び安全指導（伐倒の手順、かかり木の処理の仕方など）並びに器材の貸し出しを実施しています。 次回の森林整備は、9月5、6日に行われます。

林業体験指導

犬山中学校

愛知県犬山市の犬山中学校は、木曽川の上流である木曽地域において、木曽の自然や文化を学ぶ木曽総合学習を毎年行っています。

5月19日（火）に2年生の235人が、①遊歩道へのヒノキチップ撒き、②記念植樹と遊歩道へのヒノキチップ撒き、③熊被害防止のテープ巻の3つのグループに分かれ作業しました。当センターもそれぞれのグループにおいて作業指導を行いました。



上松技術専門校

長野県上松技術専門校は、木工の技術を習得する単年度修学の職業訓練校です。森林の役割と維持管理の大変さ・大切さや木曾の林業の歴史を学び、木材の有効活用を意識づけることを目的として、毎年林業体験を行っています。

5月8日（金）に、訓練生44名が、熊による皮剥ぎ被害を防止するため、ヒノキの幹にテープを巻く作業を実施しました。作業終了後は、赤沢自然休養林内を散策し、木曾ひのきの歴史等について学びました。木曾森林管理署と当センターとで、作業の指導と散策の案内を行いました。



木曾の国有林見学会（春季）



木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会（春季）」を5月28日（木）に開催しました。

この催しは、江戸時代から現在まで深い繋がりをもつ木曾地域と名古屋の関係や、森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、下流域の都市住民の方々に、木曾川源流の国有林を訪ねてもらい、木曾地域の林業の歩み、木材輸送方法（伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産）及び名古屋の熱田白鳥貯木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を実際に見聞きしていただく現地講座を名古屋市熱田生涯学習センターと共催により開催したものです。

当日は、名古屋市熱田区などから抽選で選ばれた45人が参加し、森林鉄道の車窓から見える森林と溪流が織り成す景色を眺め、また、江戸時代から約三百年余の時を刻み、見事に成長した木曾ヒノキやサワラが鬱蒼と生い茂る林内を散策し、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の樹種の見分け方や特徴などを学びました。

参加者からは「普段の都会生活とかけ離れた所に行けて良かった。」「森林・せせらぎ・小鳥のさえずり・静けさ等普段は感じ取ることができない体験ができた。」との感想が寄せられました。



【人事異動】4月1日付

転入：自然再生指導官 菊池 洋二（木曾森林管理署より）
〃 黒田 誠（技術普及課より）